

1. バリアフリーに関する用語の使用について

①児童（5 年生対象と聞いています。）にとってかなり理解が難しい用語（言葉遣い、言い回し）が説明に使われているように思います。

現場の先生方の意見を踏まえ（2. の項目参照）再検討すべきと考えます。この点について、考えをお聞かせ下さい。

例えば、以下の用語や表現です。

（順不同）

「自分ごとと捉えてもらう」、「更年期障害」、「内部障がい、精神障がい、発達障がいについて伝える。」、「・・・相互作用して「困りごと」になる。」、「障がいの社会モデル」、「・・・合理的配慮をする。」、「・・・困りごとを想像し、共感する。」、「ピクトグラム」、「条例」、「コミュニケーションボード」等

また（3 コマ目）「考えてみよう！心のバリアフリー（障がい者の社会モデル編）」では、神奈川県「みんなのバリアフリーまちづくり条例」を取り上げ、そこでは〈内容〉として「・児童に身近でない取組について考える。」と記述されています。

「児童に身近でない取組について考える。」ことは難しいのではないのでしょうか。

⇒（都市政策課 回答）

教材（スライドやプリント）に記載された難しい単語やことばについては下記のとおり対応いたします。

- ① 児童が理解できるような言葉に言い換え
- ② 説明書きを併せて表記
- ③ 講師による説明

また、スライドの下記に記載している単語やことばは、授業が行う講師向けです。

2.

教育委員会及び現場の教諭の方々との協議について

②今後、教育委員会などの関係部署と協議を重ねるとありますが、いつ、どのような形（テーマや検討内容等）で進める予定ですか。
日程および話し合うテーマ等を明らかにしてください。

⇒（都市政策課 回答）

今年度の実施方針や授業の形態について教育委員会などの関係部署と必要に応じて協議を重ねて参りました。今後も必要に応じて綿密に連携を図ってまいります。

③この場合、現場の担当教諭一人ひとりが、授業目的を理解し、進め方を共有することが重要と考えます。

特に、担当教諭への事前研修が必要と考えます。

このための取り組みは、どのように考えていますか。

具体的な説明をお願いします。

⇒（都市政策課 回答）

内容だけでなく、本教室の取組方針、学びの目的やねらいからしっかりと説明し、理解していただいた上で、一方的な研修ではなく、相互に対話できる環境で研修の実施を考えております。

3. 各コマ、プログラムの時間配分について

④1 コマ 45 分とした場合、それぞれのコマのプログラムはどのような時間配分になりますか。

タイムスケジュールを明らかにしてください。

特に資料説明の時間と子どもたちの発言・発表時間の配分を明らかにしてください。

＊)「話す内容」にどのくらいの時間をかけるのか。具体的に分かるように説明してください。

＊)「児童にやってもらいたいこと」にどのくらいの時間をかけるのか。具体的に分かるように説明してください。

⇒ (都市政策課 回答)

時間配分については令和7年7月11日送付の資料「令和7年度心のバリアフリー教室プログラム概要(素案)」に記載しておりますが、より見やすくしたものを8月4日の協議会でお配りします。

「話す内容」や「児童にやってもらいたいこと」の具体的な時間配分については、実際に授業を行っていただく講師に一任することを考えております。(1コマ目の講師は担任の先生、2・3コマ目の講師は市職員)

このため、授業で使用する教材それぞれについて、児童に「何を」学んでほしいのかを明確にするため、「話す内容」や「児童にやってもらいたいこと」を記載しております。

4. 「児童にやってもらいたいこと」について

⑤プログラムに書かれた「児童にやってもらいたいこと」では、実際にどのような方法(取り組み方)を考えていますか。

児童はグループで考えるのですか。あるいは一人ひとりで考えるのですか。また発言や発表はどのようにするのですか。

それらの取り組み方が分かるように説明してください。

またその場合、何故その方法を取るのか。考えをお聞かせください。

⇒ (都市政策課 回答)

「児童にやってもらいたいこと」の取り組み方については、実際に教室を行う講師に一任することを考えております。

5. プログラム全体の考え方について

⑥子どもたちに、知識を教え込もうとする姿勢が強いように思います。
バリアフリー教室においては、子どもたちに、「実践、体験、対話、交流を通して、わかりやすく考えてもらうこと」が大切ではないかと思います。
そのため、視点をもっと低くして（子どもたちの視点に合わせ）、知識を教え込むのではなく、当事者との交流や対話など、直接体験を通して、バリアフリー社会に対する子どもたちの“気づき”を生み出すべきと考えます。

⇒（都市政策課 回答）

今年度のプログラム改訂の背景には、これまで当事者との交流や対話といった直接体験に重きを置いて実施してきた教室に対し、児童から「障がいのある人は大変」「遊べて楽しかった」といった感想が一定数寄せられ、交流体験にとどまっている現状が見受けられたことがあります。

また、当事者が出向き、障がいについて学ぶ福祉教育は、茅ヶ崎市社会福祉協議会が実施していることから、本教室では「心のバリアフリー」への理解に重きを置き、すみ分けを図っていきたいと考えております。

また、事務局には本教室の開催校数を増やしてほしいとの要望も寄せられており、学校現場における「心のバリアフリー」への関心は非常に高まっています。限られた人的資源でより多くの学校で実施するため、内容をより効率化し、短時間でも効果的に児童に学びを届けられるよう改良が必要です。教室の実施手法については、教育委員会からのアドバイスをもとに講義と活動のバランスを調整しております。一方的な知識の押付けにならないよう、講義中における問いかけや、プリント・宿題の活用によって、児童の気付きや自ら考えることを促す内容になるよう工夫しております。

⑦「心のバリアフリー」で取り込むべき領域は広範囲に及びます。

今回素案で示された、1コマ45分で3コマ予定の授業は、考える内容が多すぎるのではないのでしょうか。

成人でもこれらの内容を、45分×3回で理解するのは困難と考えます。

また3コマ目には共用品デザインの考え方が織り込まれています。

そこでは「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」との関連が整理されていません。

これまで問われてきた「ユニバーサルデザインからバリアフリーへ」と「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」の視点が入り混じっており、学ぶ対象が広がり過ぎているように思います。

従ってこの「心のバリアフリー教室」では、バリアフリーに焦点を絞り、学習を進めて行くべきと思います。

⇒（都市政策課 回答）

全体のボリュームについては、今年度の実施結果を踏まえ、必要に応じて最適化して参ります。また、クイズの題材については「ユニバーサルデザイン」、「バリアフリー」に関わらず、児童に身近なものを選び、バリアを減らす工夫があることを知ってもらうことを目的としております。

⑧宿題をみると「…答えを書きましょう。」とあります。

「心のバリアフリー」には答えはありません。

「みんなで考えて、気づいて、行動していくもの」と考えています。

この表現には、とても違和感を感じます。

⇒（都市政策課）表現を修正致します。